

◆ 1日の日課を確認しよう

<p>1 対象児童生徒（対象学級）の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部生徒（重度重複障害）抜粋 <p>個々の学習時間や休憩時間で、タブレット型端末を経験する生徒が徐々に増えてきた。アプリの内容を理解して楽しめる生徒、画面の動きに興味を示す生徒、また、ほとんど経験したことのない生徒と、タブレット型端末に関する実態はさまざまである。</p>																																				
<p>2 指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の会のプログラムの一部に、生徒が主体的にかかわる活動としてタブレット型端末を利用し、視覚情報の提示によって、朝の会に興味をもって参加するきっかけとする。 																																				
<p>3 取組の中心となる教科・領域等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の指導（朝の会） ・ 音楽科 																																				
<p>4 使用したアプリ、周辺機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Keynote テレビ HDMI ケーブル 																																				
<p>5 指導の経過及び児童生徒の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な取り組み <p>① 朝の会では主に「今日の日課の確認」で、タブレット型端末とテレビをつないで、実際の授業での生徒の活動風景を写し、視覚によって1日の流れをイメージしやすくした。実際には、当番の生徒がVOCA（ビッグマック）を押すと、「1時間目」とコールされ、それに呼応してタブレット担当の生徒がタップして、テレビ画面に1時間目の活動内容が表示されるという流れで行った。</p> <p>② 音楽の授業では、「今月の歌」の歌詞や、歌詞の内容に関連するイラストや画像をテレビに映し、視覚により、歌の雰囲気イメージした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の変容 <p>① タブレット型端末の朝の会での役割や使い方をよく理解していると思われる生徒は、教員が朝の会に向けて準備しているタブレットを見て、うれしそうな弾んだ声を出したり、手を挙げて意欲を示したりと、とても楽しみにしている様子が見られた。</p> <p>② テレビ画面に日課の授業風景が映ると、顔を上げて、画面に目を向けている生徒が、タブレット型端末を利用する以前より増えたように感じる。</p> <p>③ 9月以降、自分が担当する朝の会15回全てにタブレット型端末を導入した。そのうち、小学部よりタブレット型端末に慣れ親しんでおり、朝の会等集団の場面で泣いて自己主張する傾向にある生徒の、朝の会の様子に関しては、簡単ではあるが、以下のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>9月</td> <td>・・・3回実施（タブレット担当1回 欠席1回）</td> <td>特に訴えはなくおとなしい。</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>・・・4回実施</td> <td>泣いて自己主張し、不調</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>終わる直前、最後の号令で訴え出す</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>落ち着いて笑い声が出て楽しそうに参加</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>・・・4回実施（タブレット担当1回 欠席1回）</td> <td>いずれもにこやかで笑い声も出ていた。</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>・・・3回実施</td> <td>落ち着いて楽しそうに参加</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>朝の会が始まる直前と、直後に泣いて自己主張していた。</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>（朝の会の間は落ち着いて参加。）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>・・・2回実施（タブレット担当1回）</td> <td>朝の会が始まる前から声を出して自己主張していたが、</td> <td></td> </tr> </table>	9月	・・・3回実施（タブレット担当1回 欠席1回）	特に訴えはなくおとなしい。	2回	10月	・・・4回実施	泣いて自己主張し、不調	1回			終わる直前、最後の号令で訴え出す	1回			落ち着いて笑い声が出て楽しそうに参加	2回	11月	・・・4回実施（タブレット担当1回 欠席1回）	いずれもにこやかで笑い声も出ていた。	4回	12月	・・・3回実施	落ち着いて楽しそうに参加	2回			朝の会が始まる直前と、直後に泣いて自己主張していた。	1回			（朝の会の間は落ち着いて参加。）		1月	・・・2回実施（タブレット担当1回）	朝の会が始まる前から声を出して自己主張していたが、	
9月	・・・3回実施（タブレット担当1回 欠席1回）	特に訴えはなくおとなしい。	2回																																	
10月	・・・4回実施	泣いて自己主張し、不調	1回																																	
		終わる直前、最後の号令で訴え出す	1回																																	
		落ち着いて笑い声が出て楽しそうに参加	2回																																	
11月	・・・4回実施（タブレット担当1回 欠席1回）	いずれもにこやかで笑い声も出ていた。	4回																																	
12月	・・・3回実施	落ち着いて楽しそうに参加	2回																																	
		朝の会が始まる直前と、直後に泣いて自己主張していた。	1回																																	
		（朝の会の間は落ち着いて参加。）																																		
1月	・・・2回実施（タブレット担当1回）	朝の会が始まる前から声を出して自己主張していたが、																																		

途中から落ち着いて笑顔が出ていた。

1回

落ち着いて楽しそうに参加

1回

泣いて自己主張する理由を正確に把握できないこともあるが、タブレットを導入しない1学期にくらべて、泣いて自己主張する回数が、少なくなったように思う。

6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

- ・上記の生徒が、朝の会で楽しめるのは、タブレットの操作だけに限らず、キーボードを鳴らしてあいさつすること、テレビ画面を見たり、VOCA（ビッグマック）を操作したりすることである。いくつかの支援機器を組み合わせ活用することが、有効と考えられる。
- ・「日課の確認」では、校時ごとにタブレットの画面が切り替わったことがわかりやすいように、スライドが切り替わるタイミングで効果音を挿入した。この効果音で、画面への関心も高まったように感じた。
- ・これまで、Keynoteの懸案事項として、調整された微細なタップが要求され、すぐに作成画面に戻ってしまい、生徒のモチベーションが下がる傾向にあった。最近、アクセシビリティのタップの設定により、生徒の主体的な操作で、画面がスムーズに反応することが可能となり、幅広い生徒で利用の可能性が広がった。